

測量調査設計業務実績情報サービス(TECRIS)

5 T-07

入力システムVersion4.0のリリースについてⁱ桔梗 靖之ⁱⁱ 佐藤 五郎ⁱⁱⁱ 小林 保^{iv}財団法人 日本建設情報総合センター TECRISセンター^v1. 測量調査設計業務実績情報サービス
(TECRIS:Technical Consulting Records Information Service)

測量調査設計業務実績情報サービス

(TECRIS:Technical Consulting Records Information Service)とは平成5年12月、中央建設業審議会における建議「公共工事に関する入札・契約制度の改革について」を契機に建設省(現国土交通省)の要請によりTECRISの整備・運営を財団法人 日本建設情報総合センター(以下「JACIC」)が行っている。公共発注機関が業務を発注する際に、より公正で客観的な企業選定(各事業の地域性、特殊性、企業の技術的適正を総合的にかつ公正に評価・判断)ができるよう支援することを目的として、TECRISは公共発注機関並びに公益民間企業が発注する公共性の高い事業に関する業務実績情報をデータベース化し、情報提供を行うものである。

TECRISへの登録は、発注機関から業務を受注した企業が、「TECRIS入力システム Version 4.0」を使って作成した業務実績データ(業務カルテ)をJACICのTECRISセンターまたは地方センターに提出することにより行う。

TECRISには平成5年度以降に完了した業務実績が登録されており、平成13年8月末現在、約34万件の実績業務情報、約6千社の企業が登録されている。完了登録された業務件数の割合は都道府県・市区町村発注の登録件数が全体の6割を占めている。

発注機関では、業務カルテに基づいてTECRISデータベースに登録された業務実績データを、業務発注時に、同種業務実績や地域内業務実績等の実績データの確認、会社情報や予定管理(主任)技術者の業務経歴等の確認など、入札・契約手続きの透明性、競争性をより一層高めつつ、技術力に信頼のおける企業選定を行うために活用している。

2. データの流れ

(1)登録対象業務内容

登録対象業務は契約金額が500万円(消費税込み)以上の調査設計業務、地質調査業務ならびに測量業務を対象としている。建築関係業務および補償コンサルタント業務は登録対象外となっている。

(2)登録対象発注機関

公共発注機関ならびに公益民間企業から発注された業務を対象としている。なお、公益法人は発注者扱いとなり、公益法人が受注した業務は登録対象とならない。

(3)登録手続きの流れ

発注機関が業務を発注してからTECRISに業務実績データおよび技術者データが登録されるまでの流れは以下のとおりである。

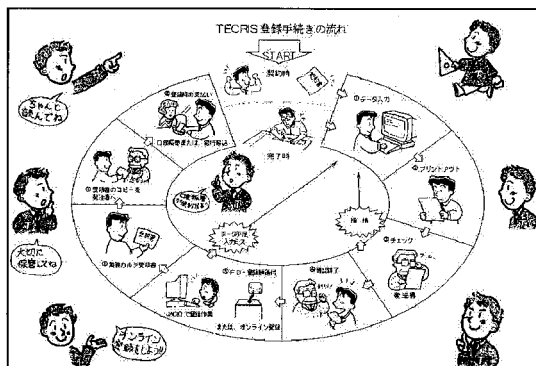


図1. 登録の流れ

- ①業務を受注した企業がTECRIS入力システムを用い、登録する業務データを入力する。
- ②入力データを印刷し、「業務カルテ」を出力する。
- ③企業は出力した「業務カルテ」の内容を発注機関に確認してもらう。(発注機関は入力データの間違ひがある場合は、企業にデータ修正を指示。)
- ④企業は「業務カルテ」の内容が正しいと確認がとれた後、入力データをJACICに送付する。
- ⑤JACICは、企業から送付されたデータを確認した後、登録作業を行う。JACICにおいて受付データの間違ひが確認された場合には、①に戻る。
- ⑥正常登録が行われると、JACICは「業務カルテ受領書」を発行、企業へ発送する。

i Technical Consulting Records Information Service : Release of data entering system Version 4.0

ii Yasuyuki Kikyo

iii Goro Sato

iv Tamotu Kobayasi

v Japan Construction Information Center Foundation TECRIS Center

- ⑦企業は届いた「業務カルテ受領書」のコピーを発注機関へ渡す。これが登録完了の証拠となる。
- ⑧企業は別途送付される「請求書」により、JACICへ登録料を振り込む。

(4).TECRIS入力システム

TECRIS入力システムは発注機関が発注した業務内容を入力するために受注企業が使用するシステムである。バージョンアップ履歴は以下のとおりである。

表1. TECRIS入力システムのバージョンアップ内容

年	バージョン	内容
平成7年	1.0	システム初リリース
平成8年	2.0	測量業務登録への対応
平成11年	3.0	技術データの登録
		TECRIS技術者IDの追加
		発注機関コードの整備(5桁から8桁へ)

3. TECRIS入力システム Version 4.0

TECRIS入力システムは測量業、土木設計業の公共発注機関への実績情報提供システムとして広がるにつれ、多くの要望をいただくようになった。TECRISセンターでは平成12年12月に実績登録登録件数が多い上位5%の220社に対してアンケートを行い、158社の回答をいただいた。

省庁再編等の社会的な変化、技術的状況の変化、アンケートのご要望のあった内容からTECRIS入力システムVersion 4.0には以下の項目について対応を行った。

(1).平成13年の省庁再編対応の発注機関コードを採用

TECRIS入力システムでは実績情報の登録時に発注機関を画面上プルダウン方式によって入力できるようになっている。平成13年1月からTECRIS入力システムVersion4.0のリリースまでは旧発注機関コードによって暫定的に運用を行い、平成13年5月のシステムリリース時に平成13年省庁再編に対応したものとした。平成13年12月時点、他の市町村区の統廃合を勘案した発注機関コードの作成を行っている。

(2).入力システムを32ビットプログラムへと全面的に書き換え、安定性を向上させた。

マイクロソフト社のWindowsパソコンの普及により、TECRIS入力システムVersion1.0よりプログラムの開発として利用してきたVisual Basic Verison 2.0の16ビット開発環境(Win16)では新機能の追加、Windows上のプログラム動作環境への順応性、プログラム動作の安定性の確保が困難になっていた。そのため、開発環境をVisual Basic Version 6.0の32ビット開発環境(Win32)へと変更し、プログラムコードを全面的に

32ビットへと書き換えた。これにより、16ビットプログラムサイズの1MB制約がなくなり、新機能の追加によるプログラムサイズを気にする必要がなくなった。また、プログラムの動作をマルチスレッド化することができ、動作の安定性やプログラム内でのトラブルを他システムへの波及を最小限に押さえることができる。

(3).外部の別プログラム「会社固有情報入力システム」と紙ベースでの技術者登録手続きを一本化

TECRIS入力システムVersion 3.0では登録企業の会社固有情報入力システムが外部プログラムとなっていた。また技術者登録については紙による登録を行っていた。このため、会社情報や技術者情報の更新が滞る問題があった。各社へのアンケートにおいても別に提供していた上記入力システムを1本にすることや技術者情報の登録を電子化のご要望をいただいていた。TECRIS入力システムVersion 4.0では会社固有情報登録と技術者登録の入力システムを統合して、一本化し、会社情報と技術者情報の更新を容易にできるようにした。

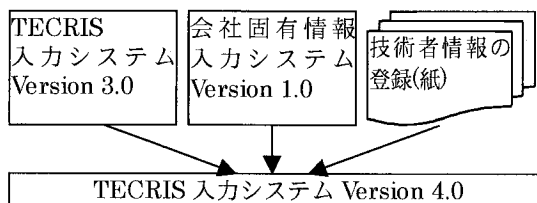


図2. TECRIS入力システムVersion 4.0の機能統合

(4).業務キーワードを7千語追加

TECRIS入力システムVersion 1.0からあった業務キーワード機能はTECRIS入力システムVersion 3.0では業務キーワードのコード化を行っていた。一方でコード化されていない業務キーワードについてはTECRIS入力システムVersion 3.0の業務キーワード自由入力欄から登録希望の業務キーワードを入力いただき、次期バージョンから取り込まれる予定であった。TECRIS入力システムVersion 4.0では業務キーワード7千語を新たにコード化、追加し、業務キーワードを1万7千語とした。

4. 今後について

今後、TECRISセンターでは公共発注機関、公益民間企業への啓蒙活動を行い、土木設計業界、測量業界等の入札の競争性、透明性に資するようにTECRISの活用について啓蒙を行っていく予定である。